



発育期の矯正治療にできること

矯正歯科くろえクリニック 黒江 和斗

略 歴

1980	福岡歯科大学歯学部卒業
1980	鹿児島大学歯学部歯科矯正学講座 医員
1982	鹿児島大学歯学部歯科矯正学講座 助手
1986	宮崎医科大学歯科口腔外科学講座 助手
1992	鹿児島大学歯学部付属病院 講師
1995～1996	文科省在外研究員 Human Origin Group, The Natural History Museum, England
2000	鹿児島大学歯学部歯科矯正学講座 助教授
2005	矯正歯科くろえクリニック開院
2007～2014	日本矯正歯科学会理事
2011～2013	九州矯正歯科学会会長

不正咬合は、先史時代以降、漸次増加していると報告されて久しいですが、最近の報告では、不正咬合はさらに増え、重症化しています。

不正咬合は発育の異常 (Moyers, 1988) ですが、今の子どもたちの体に起きている異常は不正咬合だけではないようです。文科省2010年度学校保健統計調査によれば、身長伸びは限界、永久歯の虫歯は過去最少になったが、喘息の子どもは増え、中学を除いて過去最悪を更新、ハウスダストや花粉、ペットの毛などの影響が考えられるが、原因の特定は難しいとしています。視力の低下も進み、1.0未満の子どもは増加中、0.3未満は幼稚園と小学校で過去最悪としています。子どもたちの体は、健全でない状態にあり、しかも悪化の一途にあるようです。これら隣接領域の異常と不正咬合は、発育の異常を示す赤信号、警告とも思えます。

人生で最も大切なことは、健やかに育ち、健康で幸せな生涯をおくることだと思います。発育期は、健全な心身を育てる大切な期間ですが、今の子どもたちの多くは不健全という大きな負荷を抱えて発育という急な坂道を登っているように思えてなりません。

発育期の矯正歯科治療とは、顎骨や顔面、機能の異常を正し、結果として歯並びも良くなる治療です。この治療は、早期治療、予防矯正、顎顔面矯正治療とも呼ばれますが、まさに不正咬合の芽を摘み、子どもたちの健全な発育を取り戻す治療と言えます。

ここでは、発育期の矯正治療にできることについて、皆さまと共に考えてみたいと思います。